



中村正・秋田屋本店社長

2月28日、今日は毎年恒例の策伝大賞決勝大会の日となります。岐阜市大会は、この国際会議場から全国に発信する学生落語の頂点、全日本学生落語選手権「策伝大賞」は今年第13回目を迎え、春を告げる岐阜の風物詩としてすっかり全国まわっています。

初回より会場としてきた長良川国際会議場は、著名な安藤忠雄氏の設計によるもので、金華山と長良川を借景に素晴らしい景観を誇り、岐阜の代

13回積み重ねてきた実績は重く、一つの事業の

学生日本一競う「策伝大賞」



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。県製菓協会会長。県研究開発財団評議員。みづほの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜南法人会長。県経済同友会代表幹事。岐阜放送番組審議会委員、県フェンシング協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

継続のためにはそれを文枝師匠、立川志の輔師匠に支える幾つかの条件が匠の二枚看板にありま揃うことが必要であります。

まずは何と言っても落人に岐阜までお越しの語である以上おもしろい。ただき、審査をいただくこと、さらにより多くの！このような素晴らしい人々に支持され、感動をい機会を毎年得ること国に発信されます。

呼びイベントであることができるのです。そして、若き大学生が青春を翌日には「二人会」として発散し共感を与えること。てじくりとお二人の素等要素があります。こ晴らしい落語を堪能できるような条件が揃った上です。

で、この策伝大賞の特筆 昨日実施された全国2すべき点は、審査員の桂 34名の大学生による予落語の祖と云われる高僧

です。

それを、細江茂光市長が岐阜を落語発祥の地として全国へ発信していく方針を示され、13年前、当時のスローライフ運動の一環として策伝大賞のスタートとなりました。

まさに岐阜の宝を掘り起こし、それを種に大輪の花を咲かせる見本と云えます。

本日14時スタートの決勝大会へ出場の学生さん8名にはどのような落語を聴かせてもらえるのか？決勝審査員4人の一人として文枝、志の輔

安楽庵策伝和を感じつつ、爆発する若尚の生誕のさ！秘めた青春、個性の地、ゆかりの競演を楽しみたいと思います。

岐阜の街、落語一色